

## 令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 最優秀賞

### 「 終わりなき防災と向き合う 」

鹿児島県 鹿児島市立紫原中学校 2年 <sup>ひさまつ</sup>久松 <sup>あおい</sup>葵

7月24日、桜島の噴火警戒レベルが最高の5に初めて引き上げられた。それに伴い、市役所からのアナウンスが、町中に響き渡った。レベルが引き上げられた桜島には、19もの河川があるが、通常は水が流れていない水無川が多く、火山活動が活発なため、少ない雨でも土石流が発生する。噴火災害だけでなく、土石流の被害もあるため、災害の危険性が高い地域だ。そのため、私はとても不安に思った。被害の大きさはどうなのか、また爆発は起こってしまうのかといろいろなことを考えた。布団の中に入ってからそれらのことを考えて、なかなか寝ることができなかった。

次の日の朝、テレビをつけると、昨日の桜島の出来事がニュースで大きく取り上げられていた。それを見ていて、私の頭に「もし災害が発生したときに私はしっかり行動できるのか」ということが浮かんだ。その日から、私の防災に対する意識が高まった。

まずは、家に防災グッズがあるかを確認した。少し探してみたところ、棚の中にティッシュや食べ物、懐中電灯などが入った箱を見つけた。防災グッズが家にあったことに安心しつつも、多くの課題が見つかった。1つ目は、置いてある場所。棚の高い位置にあり、もしもの時に取り出しづらいのではないかと思った。2つ目は、箱に入っているというところ。箱は少し大きく、これでは運びづらいのではないかと思った。3つ目は、箱の中身。情報を得ることができるラジオ、ケガや体調をくずした時の医薬品など、とても必要な物が足りていなかった。こうした課題は防災グッズを袋に入れ、すぐに取りれるように玄関に置いたり、防災グッズを買い足したりするなど、とても簡単に改善できる。もしもの時の安心のためにすぐに実行したい。また、用意した後も定期的なチェックや、防災グッズの場所を家族全員が把握することも大切だと思う。これらを行って、災害前の防災グッズによる対策を入念にしていきたい。

次に、災害時の被害について調べることにした。防災ということは、災害について正しい知識をもっておくことも大切だと思うからだ。家にあった災害についての冊子やインターネットを使って、噴火、地震、土石流などいろいろな災害時を想定して調べてみた。今までの経験や知識から知っていることも多かった。しかし、なかには初めて知ることも多くあり、改めて災害の恐ろしさを感じた。加えて、災害が起きた時にどのような行動を取ることがいいのかを調べた。今まで、間違った認識を持っていたこともあり、知らないことへの危険を感じた。これからも上手く情報を活用して、状況に応じた判断ができるようにしたい。

今度は、鹿児島県や私の家の周辺の避難所について確認してみた。調べてみると、県内には学校や公民館など多くの避難所があることが分かった。これで、県内どこにいても避難ができる場所があるという安心感を覚えた。私の家の周辺もいくつか避難所があり、心強い気持ちになった。その後、我が家の避難所を話し合っ決めて、家族みんなで共有した。この話し合いのおかげで、災害が発生した時に家族が別々の場所にいたとしても、共有した避難所につながっているため、慌てずに行動できると思う。

災害とは、いつ、どこで、何が起こるか分からない。また、予測することが難しい。しかし、情報を集めたり、家族とそのことを共有したりするなど防災に対して、簡単なことも多くあると感じた。防災についていろいろ学んだことで、今の私は以前よりは災害時の行動が分かったと思う。だが、まだまだだと感じているため、これからも終わりのない防災と向き合っていきたい。もしもの時に冷静に、最善の判断ができるようにするために。